

薫 風



No.135

平成27(2015)年3月

PTA活動 一年間を振り返り



PTA会長

中山 勝司

今年度は「子供達の学校環境をしつかりバックアップしよう」というスローガンを立て活動してきました。なかなか「しつかり」というわけにはいきませんでした。一定のメリハリある活動はできたのではと思っています。中でも生徒の皆さんから要望の多かった強歩大会の豚汁贈いと、PTAカルチャー講座及び交流会は、副会長、PTA理事、会員の皆さんの多大なご協力をいただき、大変達成感のある活動とすることができました。誠にありがとうございました。尚PTA活動に当たり、会員との連絡手段として、メールシステムの必要性を痛感し、今後導入に向けて検討していきたいと思っています。

さて薫嶺前号でも若干触れておりますが、伊那北高生に是非とも地元回帰意識を持つていて欲しいと、この一年間を通じて切に感じております。昨今「地方創生」が大きな課題となっており、ますが、地元には働く場が無い、というのが大きな理由の一つです。しかしこれからは大都市集中の弊害は必ず起こります。国の中枢機能も、企業にとっても、リスク分散のため地方の見直しは喫緊の課題であり、近未来であると思います。

地域の進学校である当校から、将来を担う当地の優秀な人材をこれまでのように安易に他地区へ流出させてはいけない、と切実に思います。

働く場がなかったら自分で起こしましょう。大都市の生活に埋もれて悶々としているより、山河に囲まれ自然を感じながら生活し、自分で生き方を見出す方が、余程楽しく、有意義な人生を送れるに違いありません。

参加報告

*全国高等学校PTA連合会大会

H 26.8.21～23

福井県敦賀市



全国から約1万名が集まり、本校からは校長先生と本部役員全員が参加しました。

脳科学者茂木健一郎氏の講演会、『家庭教育とPTA』家庭教育力への啓発のテーマでの分科会に主に参加してきました。

茂木氏の印象に残っている言葉は、「欠点のすぐそばに長所がある。」でした。悪いところは伸びしろがいくらでもあるので、努力次第でいくらでも長所になる。批判せずできないことに挑戦するよう励ましてあげてほしい、とPTA会員に力説していました。胸に落ちる言葉でした。

分科会では、4名の発表者がテーマに沿って各校のPTA活動を通しての事例を発表していただきました。共感できる部分が多々あり、大変参考になりました。

役員にならないとこんな機会はなかったでしょう。今後の活動において学校、本部役員の団結力がより強くなるきっかけになった大会でした。



文化・教養委員長 須田 秀枝

三月、前年度からの引き継ぎ内容を副委員長北原さんと確認、年間の計画や段取りも作り「これでオッケー♪」と思っておりましたら「入学式で会長さんが引き継ぎにないことを言ってる!」との情報。これに始まり新しい取り組みが次々と・・・でも、生徒さんやPTAを思っ出て出される新案、何とか実現せねば!と前向きに取り組んでしまつた私たち「PTA活動に悔いなし(笑)」です。本会の強力なバックアップで、カルチャー講座、PTA合唱ともに充実した活動となりました。

初めて出会った方々との活動は財産、子ども達の姿からは活力をもらい、担当の先生方にはたいへんお世話になりました。皆様のご協力、ありがとうございました。

施設厚生委員長 松村 芳彦

今年度も、施設厚生委員会の活動は、春と秋のクリーンアップ作戦を計画し、準備を進めてきましたが、春の実施日が雨天の為中止となり、その分を秋の実施日に詰め込む再計画を立て実施しました。計画に多少無理があるかと思いましたが、大勢の保護者の参加と、事務の先生方の下準備のおかげを持ち、無事計画通り作業を行う事が出来ました。テスト期間前であり、「生徒の参加無し。」との事でしたが、一部の生徒は部活の活動拠点を、保護者、顧問の先生と共に、もくもくと作業する姿を目にする事も出来ました。今後も、保護者と生徒と一緒に参加できる活動として、継続されることを願います。参加された大勢の皆様、ご協力ありがとうございました。

生活指導委員長 松本理恵子

高校の地区役員ならそんなに大変なことはないだろう。と甘い気持ちでいた所、最初の会合で大役が来てビックリしてしまいました。

ですが、始まってみると各行事の駐車場整理と強歩大会の交通指導、委員長としては夏休みの街頭指導、と生徒さんに深いかかわりのある活動でした。街頭指導では市の補導員さんと回るなど貴重な体験をさせていただきました。高校生になると学校行事への関わりが減ってしまう中、参加したりお手伝いができ、とても有意義な時間が持てたと思います。

担当の原先生や役員の方々には大変お世話になりました。今後積極的にPTA活動に参加して行きたいと考えています。1年間ありがとうございました。

広報委員長 荻原恵美子

委員の方々、先生方のお力を得て無事薫嶺一三四号・一三五号を発行することが出来ました。

広報委員会では、いろいろな行事で活躍する伊那北生の姿、PTA活動での会員の方々の姿をより多く紹介できるように年間取材活動を行ってまいりました。委員の方々には取材活動、原稿作成と忙しい時間の中でみなさん活動していただき感謝申し上げます。

取材で何度も学校にお邪魔させていただきました。生徒の方々に声を掛けていただいたり、話をする機会がありましたが、いつも清しい気持ちを何度も味わいました。さすが伊那北生ですね。

金賞

合唱コンクール 3学年

最優秀賞



3-D 「新しい歌」より 一詩人の最後の歌

僕達が歌った「一詩人の最後の歌」は皆で合わせづらく、とても難しい曲でした。こんなに難しい曲で賞が取れるのか、と不安に思う時もありましたが、練習を重ねるにつれ、それは確かな自信へと変わっていきました。本番でも皆が自信を持って歌えたからこそ最優秀賞が取れたのだと確信しています。(ルーム長 木下諒一君)

金賞



3-E 青い鳥

銀賞



3-C 誕生



3-A はじまり



3-B そのひとがうたうとき



3-F 明日への扉

会場の様子 (伊那文化会館)



ベストコンダクター賞

3-D 細田美裕 さん

人生で初めて指揮を振らせていただき、しかも賞までいただいて…本当にクラスの皆のおかげです！心から感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございます。



ベストピアニスト賞

3-D 小木曽茜 さん

気迫溢れる演奏を目指してクラス全員が精一杯取り組みました。3-D全体が最高の評価を頂いたことを非常に嬉しく思います。ありがとうございました。

2学年



金賞

2-A 明日に架ける橋



銀賞

2-E あなたに会えて...



銅賞

2-D 「空に、樹に…」より 聞こえる



2-B ふるさと



2-C 糸



2-F 時代

1学年



金賞

1-A 「海の詩」より 航海



銀賞

1-D ひこうき雲



銅賞

1-F 「ひとつの朝」より ひとつの朝



1-B 証



1-C きこえる



1-E 言葉にすれば

感想

文化教養委員長 須田秀枝

「ああ楽しかった！」短くリズム感あふれる歌を、軽やかでスマートな指揮で歌わせていただきました。音の取りにくい歌を3回の練習で仕上げてしまったPTA参加の皆さまにはびっくり。合唱班との合同演奏は心強く、また練習のために学校へ通うのは楽しい時間でした。

「きみ歌えよ」はPTAから生徒の皆さんへの呼びかけでもありました。詩は谷川俊太郎、届きましたでしょうか？

講評の白鳥先生からは、PTAだけで歌っては？とのご提言。上手く歌いすぎちゃいましたね。



PTA合唱

「新しい歌」より きみ歌えよ

緊張の本番

7回伊那北高等学校合唱コンクール



第49回 強歩大会

9月30日(火)

男子 32.9km、女子27.4km

第49回強歩大会が秋の晴天の中、開催されました。気温が高く強い日差しの中、一生懸命走る生徒、仲間と一緒にゴールを目指す生徒、自分のペースで完走する生徒
また給水、関門、等の手伝いの生徒、先生、PTAの方々、それぞれの長い一日お疲れ様でした。





男子上位者	1位 矢澤 雄太 (2-C)	2時間17分54秒
	2位 石倉 大輔 (1-F)	2時間17分54秒
	3位 岡田 稜 (1-E)	2時間17分55秒
	4位 平丸 航太郎 (2-F)	2時間24分21秒
	5位 藤井 康仁 (1-C)	2時間28分33秒
	6位 大澤 昂輝 (1-D)	2時間36分32秒
	7位 橋爪 充樹 (1-F)	2時間36分45秒
	8位 伊澤 翔 (2-E)	2時間39分35秒
女子上位者	1位 平澤 慧 (2-F)	2時間39分56秒
	2位 依田 怜実 (1-C)	2時間29分01秒
	3位 三好 愛美 (2-B)	2時間30分09秒
	4位 木村 優水 (1-C)	2時間37分34秒
	5位 大野 愛子 (1-E)	2時間41分33秒
	6位 小原 めぐみ (2-E)	2時間41分33秒
	7位 才木 ひな子 (2-C)	2時間43分25秒
	8位 酒井 里奈 (2-E)	2時間49分46秒

10月4日(土)

Before

コンテナ作業前



落ち葉を
集めて、運んで



落ち葉を
集めて、集めて、集めて



After

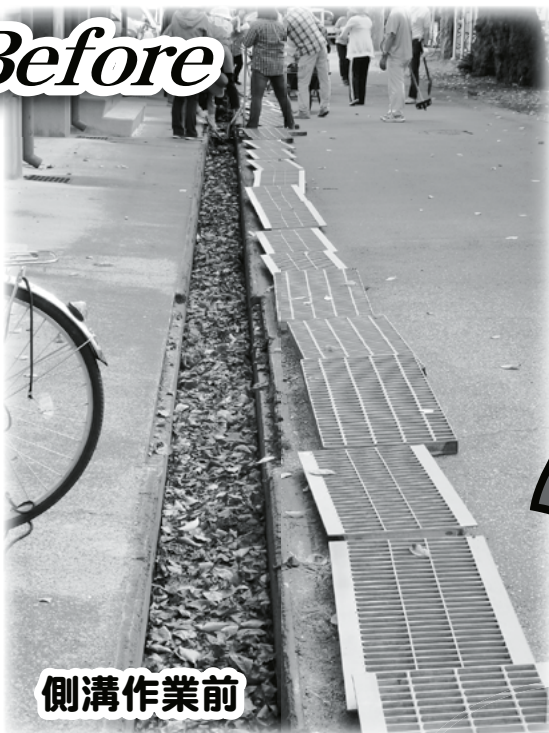
コンテナ作業後



超々盛り

Before

側溝作業前



さらって、
さらって、
さらって



After

側溝作業後



運んで、運んで



秋のクリーンアップ大作戦

10月4日に行われた恒例「秋のクリーンアップ作戦」。今年は春が雨で中止になったので、一年分を大クリアランス。PTAの皆さんの力でスッキリ。学校周辺はとても気持ちよくなりました。

刈って、刈って、
刈って、刈って、
刈って、刈って

Before

ビーバー作業前

みんなで
刈って、
刈って、刈って

After

ビーバー作業後

クロスペンアカデミー 秋期講演会



演題 「やれる理由」を見つける

講師 川口 淳一郎 博士

秋期講演会として、現在、宇宙航空研究開発機構宇宙科学研究所 (ISAS/JAXA) 宇宙飛行工学研究系教授、シニアフェロー、宇宙工学者、工学博士の川口淳一郎博士の講演会を伊那文化会館大ホールにて開催しました。伊那北生徒全員と保護者・同窓会員の方も、多数、参加されました。



～講師紹介～

1955年 青森県弘前市生まれ

1974年 青森県立弘前高等学校卒業後、京都大学工学部機械工学科に進学

1978年 京都大学工学部卒業後、東京大学大学院工学系研究科航空学専攻博士課程を修了し、旧文部省宇宙科学研究所に助手として着任、2000年に教授に就任。

2007年4月から2011年9月まで月惑星探査プログラムグループプログラムディレクター

1996年から2011年9月まで「はやぶさ」プロジェクトマネージャーを務める。

現在宇宙航空研究開発機構宇宙科学研究所 (ISAS/JAXA) 宇宙飛行工学研究系教授、シニアフェローを務める。

H15年に日本から打ち上げられた「はやぶさ」は何度も帰還が危ぶまれたが、7年ぶりに地球に帰還。小惑星のサンプルリターン達成は世界初でした。

講演特長

日本人は、しっかりと、きちんとしなくては、という意識が強すぎて、どうしても新しいことへ挑戦することに躊躇してしまいがちです。やらなくてよいのではないか。そうではありません。

前例があることだけを追っていても、けっして新しい成果を得ることはできません。どうしたら、できるのか、やれるのか。

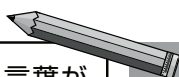
それに積極的に答えを見つけていくことが前進につながるのです。

「やれる理由をみつけて挑戦しないかぎり成果は得られない。」

若いみなさんが、この意識をもつことが日本の将来を握っています。

生徒の感想

「見えるものはみな過去のものである」という言葉が印象に残っています。だから未来は今創っていかないといいない。リスクをおかして挑戦しないと成功は得られない。どのようにやるかではなく、何をしたいかということや、自分の不完全さを恐れるのではなく、その中に可能性を感じることも、進路の壁にぶち当たっている高校生にはとても希望を与えてくれる話でした。



大学入試の現状と受験に向けてやるべきこと

河合塾 新宿校 校舎長

講師：佐藤 一郎 先生

《大学入試にかかせない4つの要素》

1. 基礎基盤

大学入試の合格ラインは60～70%の得点
基礎問題＋応用問題の合格点1/2が出来ていれば合格点になる
教科書の内容が理解でき、説明できればいい
とにかく基礎が大事
難問を解くことは多くの場合必要ない

2. 継続

地道にやること 積み重ねが大切
伸びない時もあきらめずにやること
E判定の模試でもそれ自体よりも、次回の模試の判定での伸び幅が大切

3. 緊張

4. 教養

今まで習った事を土台にして、物を考える力



難問20%

応用30%

基礎50%

《グローバル化について》

大学の中での外国人との交流、留学などを通して、外国の異文化や考えを頭で理解している段階から肌身で感じる方向へシフトしてきている。

自分の専門分野に留まらず、広く多くのことに興味を持ち、他の人と連携して踏み込める人が社会に求められている。

①『君はなぜ失敗したか』河合塾調査

1. 勉強量の不足
2. 勉強の開始が遅れた
3. 計画性がない・集中力がない
4. 基礎力不足
5. 苦手科目を克服できなかった
6. 自分の学力レベルを把握せず大学を受けた
7. 大学へ行こうという強い意志や目的がなかった
8. 本番で体調を崩した

②『合格する生徒とは』現役合格の条件

1. 志望校決定時期の早い生徒
2. 本格的受験勉強の開始時期の早い生徒
3. 授業中心で予習・復習をうまく活かしている生徒
4. 定期試験・模擬試験をうまく活かしている生徒
5. 毎日の勉強を積み重ねることができる生徒
6. 情報をうまく集めることができる生徒
7. 絶対にあきらめない生徒

活躍する伊那北生



英語部 第9回全国高校生英語ディベート大会

2B 木村 エミ

「日本は原発を廃止すべきである。是か非か。」
私達がこの一年間取り組んできた論題はこれでした。
今まで興味を持ったことのなかった一放射能、貿易赤字、地球温暖化、雇用状況等一原発に関わるあらゆることについて調べました。
幅広くそして深く調べる必要があり、それにはたくさんの時間が必要で24時間が足りないくらいでした。

全国大会では、昨年先輩方の準優勝という素晴らしい結果と同じように今年も好成績を残そうと頑張ってきましたが、結果は25位。周りの期待や応援に応えられず申し訳ない気持ちでいっぱいでした。しかし、期待や応援してくれたその周りの方々からよく頑張ったよと励ましの言葉をたくさん頂きました。その言葉から、結果が全てじゃない、大事なのはここまで頑張ってきたというプロセスとそれによって得られたものなのだと学びました。ここまで頑張ってきて本当に良かったです。

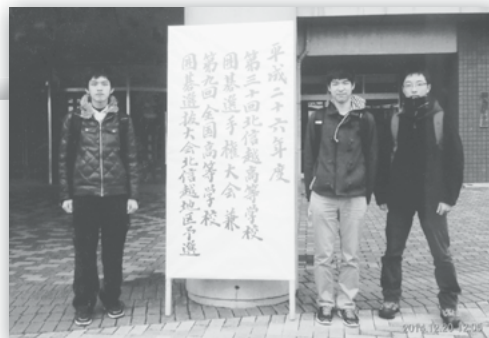
ディベートを通し私は他校のディベーターさんたちや先生方と仲良くなって頂きました。そして何より英語部のみんなと仲良くなれました。たくさんおしゃべりして笑ったり、徹夜で話し合いをしたりと、みんなで楽しい思い出も辛い思い出もいっぱい共有しました。

これまでの高校生活で一番楽しくてほっとするのはみんなといるときでした。みんなに出会えて本当に幸せです。今まで本当に本当ありがとうございます！

第30回 北信越高校囲碁選手権大会

個人戦Bで優勝・準優勝

個人戦Bは11月の県大会で1位～3位を独占し、12月20・21日に新潟高校で行われた北信越大会に出場。結果は優勝決定戦を本校2Fの塩澤耕平君と1Fの戸田陵貴君が争い、塩澤君の優勝となりました。今回はB級での参加でしたが、来年はA級での活躍を決意。新潟高校の建物の立派さに感心させられました。囲碁部に入って全国大会を目指そう！



将棋部

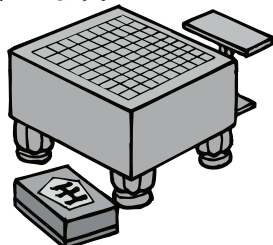
全国高等学校将棋新人大会 (1/29～31新潟市) 女子個人戦出場

2E 堀口 妙子

今回私は、全国高等学校将棋新人大会に出場しました。去年に続き今年も全国大会に進めたこと、また、個人戦ではありますが、後輩と一緒に全国大会に出場することができて、本当に嬉しかったです。大会の結果は3勝2敗と予選で敗退してしまい、決勝トーナメントに進むことはできませんでした。予選が終わった時、すごく悔しくて悲しかったです。今回の対局での反省を部活中意識して、これからの対局に活かしたいと思います。

大会では、プロ棋士の方に指導対局して頂いたり、自分よりずっと強い人の対局を見ることができたり、大会の試合以外でも、同じ県の人とは勿論、他県の人とも沢山対局できたりと、本当に楽しくて充実した3日間を送ることができました。

今回、全国大会に出られたのも、将棋部の皆さん、顧問の先生、家族、応援してくださった方々のおかげです。本当にありがとうございました。そして、これからもよろしくお願いします。



1C 前田 はるひ

私にとって初めての全国高等学校将棋新人大会は、2勝3敗で予選敗退でしたが、とても良い経験になりました。特に準々決勝、準決勝で自分の何倍も強い選手の対局を観戦できたのは、今後目標にしていくという意味でも、本当に良かったと思います。

強い選手は小さい頃から将棋をやっている人も多く、高校から始めた私がどれぐらい彼らに近づくかわかりませんが、部活動を頑張って、決勝トーナメントに残るぐらい強くなりたいです。



第69回国民体育大会 長崎がんばらんば国体 長野県代表 少年女子A走幅跳び

2C 西村 千明

今回は学校代表ではなく長野県代表としての大会で、プレッシャーもかなり大きかったですが、たくさんの経験ができたよい大会だったと思います。

インターハイの結果もあり、今回は入賞を狙っていたので、結果はとても悔しかったですが、大会やそこに至るまでの練習、合宿を通じて本当にたくさんのことを学ぶことができました。今回学んだことを活かし、来シーズンまたそれ以降につなげていきたいです。

インターハイ フェンシング 女子エペ

準優勝 3F 上田 果歩

私は、神奈川県で行われた全国高校総体に出場しました。個人戦での優勝を目指して練習してきましたが、あと1歩のところで達成することができませんでした。しかし、3年間の成長も感じる事ができた試合もありました。伊那北高校の名を背負って出場する大会は終わりましたが、経験を今後に生かしていきたいと思います。

3年間応援ありがとうございました。



インターハイ フェンシング 男子エペ

4位 3A 塩原 智輝

私は、今年初めて個人でインターハイの舞台に立ちました。結果は4位で、決勝戦へ行けなかった悔しい気持ちがある一方、高校最後のインターハイを表彰台に登って追われた嬉しさでいっぱいでした。苦手だった相手にも自分の全力をぶつけ勝つことができたことには、日頃の練習の成果を感じることができました。また、私を常に支えてくれた家族や仲間、監督には言葉で言い表せないほど感謝しています。

今の結果に満足せず、これからもさらに上の成績を目指していきたいです。



全国高等学校女子7人制ラグビーフットボール大会

北信越ブロック代表 1B 白鳥 里菜子

ラグビーを始めてたった3か月…そんな中、全国大会という舞台に立たせてもらった私はこの大会を通して様々なことを学びました。他地方のレベルの高さ、仲間と目標に向かうことの大切さ、支えられていることのありがたみ、そしてラグビーの本当の楽しさを学びました。

今大会では私はチームにとって邪魔な存在だったかもしれません。しかし、来年、再来年には必ずチームにとって必要な、そして、いずれはチームを引っ張っていけるように存在になれるようにまた1日1日練習を積み重ねていきます。

最後に、応援して下さった皆さん、本当にありがとうございました。皆さんへの感謝を忘れずに、これから進化していきたいです。



卒業おめでとう

A組 担任 竹花 光子

「念ずれば花開く」
のは本当です。志を
高く持って生きて行
って下さい。3年間
ありがとう。



B組 担任 山上 秀樹



長い人生、自分の気持
ち次第でチャレンジは
いつでもできます。大
地にしっかり踏みしめ
て、前を向いて歩いて
下さい。「人生は楽あ
れば苦あり、苦あれば
楽あり」

C組 担任 沢田 義光

「ひとつひとつ整理し
よう」って前向きな気持
ちで事を成せるために、心
を整える時間を作って
ください。そして、整
ったらできるすべてを
尽くそう。





D組 担任 常田 真由美



人の話を耳プラス(+)
目と心で聴ける人。
そして自分を大切に
でき、他人も大切に
できる人でいてくだ
さいね。

E組 担任 羽賀 規真

最大限受け取る人では
なく、
最大限与えられる人に
なろう。



F組 担任 鈴木 博之



自分ひとりでやっている
ようでも周りの支えがあ
ったこと。感謝を忘れ
ずに、行こう。

 *graduation* 



ラグビー部 創部60周年



野球部 創部90周年



吹奏楽部 創部60周年



KUNREI

No.135

平成27(2015)年3月

編集後記

今年は、広島県の土砂災害、御嶽山の噴火、大型台風の2週連続上陸県北部地震等、災害のニュースが多い大変な年でしたが、幸いにも合唱コンクール、強歩大会、クリーンアップ大作戦等行うことができました。

そして、ご協力いただきました、役員、先生、保護者の皆様本当にありがとうございました。又、取材や、記事作成に当たっては、編集員の皆様ご苦労さまでした。

次年度は、明るい話題の多い年になることを願って編集後記とさせていただきます。

広報委員会副委員長 松村 稔

編集担当

小澤 二葉 (1C)	宮田真知子 (3C)
藤井ゆきみ (1C)	桑原 卓男 (3D)
樋代 明子 (1D)	下平 由美 (3D)
肥野 志穂 (1D)	松村 稔 (3D)
瀬沼 洋子 (2C)	伊藤 香里 (PTA副会長)
黒田 由香 (2C)	西山 高志 (PTA係)
吉田 直人 (2D)	松田 章利 (教頭)
小出 正樹 (2D)	写真提供
荻原恵美子 (3C)	平澤写真館
木下佐智子 (3C)	